

第9節

राज्यकामो मनून् देवान् निर्र्तिं त्वभिचरन् यजेत् ।
कामकामो यजेत् सोमकामः पुरुषं परम् ॥ ९ ॥

*rājya-kāmo manūn devān
nirṛtim tv abhicaran yajet
kāma-kāmo yajet somam
akāmaḥ puruṣam param*

rājya-kāmaḥ—帝政あるいは王国を望む者はだれでも; *manūn*—マヌ、神の半・化身; *devān*—半神; *nirṛtim*—悪魔; *tv*—しかし; *abhicaran*—敵に対する勝利を望んでいる; *yajet*—崇拜すべきである; *kāma-kāmaḥ*—感覚満足を願う者; *yajet*—崇拜すべきである; *somam*—チャンドラという名前の半神; *akāmaḥ*—満たすべき物欲のない者; *puruṣam*—最高人格主神; *param*—至高者。

王国あるいは帝国を治めたいと望む者はマヌを崇拜しなくてはならない。敵に勝利したいと願う者は悪魔を崇拜し、感覚満足を求める者は月を崇拜しなくてはならない。しかし、物質的な楽しみなど眼中にない者は、最高人格主神を崇拜しなくてはならない。

要旨解説

解放されている人にとって、これまで挙げられて楽しみなどまったく価値がありません。外的な力という物質の様式に条件づけられた人たちが、さまざまな物欲に心が奪われてしまうのです。言いかえると、超越主義者には満たしたい物欲がなく、いっぽう物質主義者にはあらゆる物欲を満たしたがつている、ということです。主は宣言しています——物質的な楽しみを求め、これまで述べられてきたさまざまな半神の恩寵を求めている物質主義者は感覚が抑えきれず、愚かな人間でありつづける、と。ですから、最高人格主神を崇拜するほどの分別があるのですから、どのような物質的な楽しみも欲しがらばなりません。愚人を導く指導者は愚人よりも愚かです。どの半神も崇拜すればいい、得られる結果は同じだから、などと愚かにも公言しているからです。このような教えを広めるのは、『バガヴァッド・ギーター』や『シュリーマド・バーガヴァタム』の教えに反するばかりか、どの切符を買っても同じ目的地に到着する、と言うのが愚かであるように、かれらの教えは愚の骨頂です。パローダ行き切符を買ったら、デリーからムンバイに行けるはずがない。この節で名言されているように、いろいろな望みで頭がいっぱいの人は多様な崇

拝形式に従うけれども、そんなきもちのない人は至高主、シュリー・クリシュナ、人格主神を崇拝しなくてはなりません。そして、その崇拝方法が献愛奉仕です。純粋な献愛奉仕とは、果報的活動や経験に頼る推論も含む物欲がっさいない主への奉仕です。物欲を求めて至高主を崇拝することもできますが、そのような崇拝から得られる結果はまた別物であり、次の節でそのことが説明されます。ふつう、主はだれの物欲も満たしたりしません。主を崇拝する者にその恩恵を与えることもあります——やがてかれらが物質的な楽しみを望まなくなるからです。結論として、物質的な楽しみを求めるきもちを最小限に抑えるべきであり、そのためには、この節でparam (パラム) 「物質的なものすべてを超えている」と説明されている最高人格主神を崇拝すべきである、ということです。シュリーパーダ・シャンカラチャーリヤもnārāyaṇaḥ paro 'vyaktāt (ナーラーヤナハ、パロー アヴァククタート) と詠みました。至高主は物質的な次元を超えた方である、と。